

環境教育人を訪ねて 第2回

黛 若葉さん

(アドベンチャー集団 Do! / 榛名湖オートキャンプ場)

「この人のために頑張りたい」を原動力に 群馬の地域を盛り上げる

文：垂水 恵美子 (JEEF 職員)

突き抜けるような青空の下、子どもたちの声が響くのは、群馬県高崎市にある榛名湖オートキャンプ場だ。輪の中心にいるのが、アドベンチャー集団 Do! の黛^{まゆずみ}若^{わか}葉^{かば}さん。団体の代表である父のもと、幼い頃から今日までスタッフとしてキャンプに関わり、環境教育の経験を積み上げてきた。

思い返せば子どもの頃から、群馬県の環境教育の権威である父の大きな背中を見続けてきた。周囲からはどうしても「黛徳男の娘」としてみられる。まったく違う業種で頑張つてやろうと大学を卒業後、広告代理店に就職したこともあったが、また環境教育の世界へ戻ってきた。国立赤城青少年交流の家では、チームをまとめ上げる苦労に加えて、外部のイベントにも率先して参加し、多くの人と出会い、ネットワークを広げた。

経験と実績を重ねるうち、「黛若葉」として見てもらえることが増え、自信になった。群馬県内の地域づくり連絡会や協議会に多数取り組み、2021年10月からは群馬県安中市の地域おこし協力隊として、梅林を活かした地域づくりに取り組んでいる。

「協力隊の黛若葉」として取り上げられれば、私を通して安中の地域を知ってもらえると思って「高齢化が進む安中の梅農家に、「来年やればいい」は通用しない。集落がなくなってしまう前に、こ



の人たちのために頑張りたい。もつと梅の価値をあげたい。そのためにはいろんなところで使ってもらうことが必要だ。直接体験することの大切さは、これまでの環境教育の活動を通して身に沁みている。これまでの人脈も活用し、販路拡大や新商品の開発、イベントの盛り上げなど、次から次へと「やりたいこと」を話す黛さんの言葉は止まらなかった。

「私を支えてくれているのが、人と人の繋がり。こういう時だからこそ、人と関わることをやめないで欲しいと思っています」

彼女にとって「この人のために頑張りたい」という気持ちは、全ての原動力なのだ。その人との縁を大切に、全力で地域の人々と向き合っている。